

報道写真家の宇田有三さん(46)＝神戸市灘区＝が軍事政権下のミャンマーで、農民の暮らしや民主化闘争などを紹介したルポルタージュ「閉ざされた国ビルマ」を出版した。17年間で撮影した8万枚以上の中から、難民キャンプや民族解放軍兵士などの写真約80枚も織り交ぜ、表には出にくい生の姿を詳細に伝えている。

(斎藤雅志)

神戸の報道写真家 宇田有三さん

ミャンマーの内情を紹介した著書を持つ宇田有三さん＝神戸市内



# 「閉ざされた国」伝えたい ミャンマーのルポ出版

## 軍事政権下の暮らしを紹介

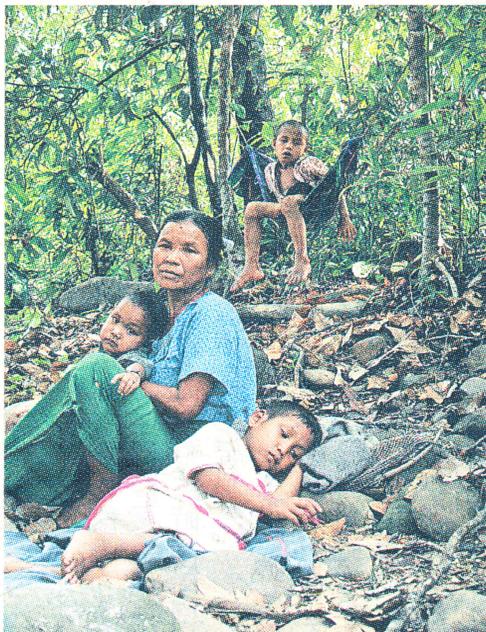
# 取材1600日 写真8万枚撮影



宇田さんは神戸市出身し、全土を歩いた。身。中学校の英語教師を 49年から政府に武力抵抗を訴えて1990年に渡米。抗を続けているカレン民サン・スー・チャー氏が軟禁された社会で生きる人たちのし、写真を学んだ。これ 民族解放軍の前線基地で整される前の96年、自宅前 苦しみを知ること、自までに軍事政権、先住民 列する少年兵の姿。山中で支持者らと対話集会を由の大切さを実感している。B6判、2をテーマに12カ国を取 避難生活が続ける農民 している写真も。民主化ますと話す。B6判、2材。ミャンマーを初めて の家族。うつろな表情か 運動が抑圧された国内 386。1785円。本の訪れた93年以降、延べ約 らは、疲労感があふれ、 で、政府の監視をかく、 問い合わせは高文研、H1600日を取材に費や 軍政下で生きる人の嘆き ぐって取材する様子が現 @koubunken.co.jp

が表れている。

場の緊迫感を伝えている



山中に隠れ住む避難民の家族―2003年

▲ アウン・サン・スー・チャー氏が入院している病院前で、プラカードを掲げる支持者ら―2003年9月 (いずれも宇田有三さん撮影)